

2021年度 名古屋ユマニテク歯科衛生専門学校

学校関係者評価報告書

学校法人大橋学園 名古屋ユマニテク歯科衛生専門学校 学校関係者評価委員会は、2022年3月17日に「2020年度 学校自己評価表」に基づいて学校関係者評価を実施しましたので、以下の通り報告いたします。

2022年3月19日作成

学校法人 大橋学園

名古屋ユマニテク歯科衛生専門学校

学校関係者評価委員会

1. 学校関係者評価委員

1. 平澤 琢二 (名古屋市中村区歯科医師会 会長)
2. 田中 裕貴 (株式会社さんぽう 企画営業第2グループリーダー) 欠席
3. 谷口 沙耶香 (歯科衛生学科 同窓会会長) 欠席
4. 中尾 聡 (学校法人 大橋学園 法人本部本部長)
5. 服部 正巳 (名古屋ユマニテク歯科衛生専門学校 学校長)
6. 杉本 佳史 (名古屋ユマニテク歯科衛生専門学校 事務長)
7. 後藤 香織 (名古屋ユマニテク歯科衛生専門学校 事務主任)

オブザーバー

- 加藤 直美 (名古屋ユマニテク歯科衛生専門学校 歯科衛生学科 学科長)
渡邊 美香 (名古屋ユマニテク歯科衛生専門学校 歯科衛生学科 副学科長)
井上 玲子 (名古屋ユマニテク歯科衛生専門学校 歯科衛生学科 副学科長)
三宅 孝 (名古屋ユマニテク調理製菓専門学校 事務局)

以上 11名

2. 2021年度 自己評価 (2020年度の学校運営等についての評価)

項目	評価・課題
(1) 教育理念・目標	<p>評価：ほぼ適切である。</p> <p>課題：学生・保護者と学校側とでは目標についてズレがある。</p> <p>改善策：入学時、進級時には、もっと保護者に対して文章だけでなく口答でも伝えて納得してもらえらるようしていく。</p>
(2) 学校運営	<p>評価：ほぼ適切である。</p> <p>課題：ダイバーシティを積極的に取り入れ、働きやすい職場環境を構築していくべき。</p> <p>改善策：働き方というところでは、それぞれのライフステージ・ライフイベント等ある方、また、女性が多い職場でもあるので、時短勤務や週何日勤務等を取り入れ、少しでも働きやすい環境になるよう検討していく。</p>
(3) 教育活動	<p>評価：ほぼ適切である。</p> <p>課題：人材不足と教員能力の強化が急務である。学生数(クラス)が増えた分、実習室の使用は、放課後の自己練習等が満足に使用できない場合がある。研修があっても授業等で時間が取れず参加できない。</p> <p>改善策：人材育成の期間も設けながら計画的に人事採用計画を行っているが、教員になりたい衛生士がいないのが現状であり解決できない課題である。各方面から情報収集するなどして人材確保に努力していく。実習室の使用に関しては、空いている時間であれば練習等に使っても良いことになっているが、学生が多いため混雑している。使用に関する運用面の取扱いを決める等して全員が万遍なく使えるように工夫する。教員の研修は平日にあるため、授業との調整が難しいが可能な範囲で研修の機会確保に努めたい。</p>
(4) 学修成果	<p>評価：ほぼ適切である。</p> <p>課題：国家試験合格のために励んではいるが、3年生の教員の負担も多い。</p> <p>改善策：いろんな方策も行いながら、学年によっての負担の偏りが無いよう各学年ごとに、教員が自分たちで運営できるように考えていく。</p>
(5) 学生支援	<p>評価：ほぼ適切である。</p> <p>課題：学生に対する相談は教員だけでなくカウンセラー等が入る方がよいと思う。学生健康管理の面で検温があるが曖昧な部分がある。改善策：同窓会に協力を求めるところもあるが、学校としての発信場所を設け周知していく。保護者会など全体的に、医療系学業についての理解・協力を周知、底上げを図っていく。</p> <p>改善策：学生相談は多岐にわたっており、特に健康管理については身体的或いは精神面で悩む学生も多く、今後も専任教員がきめ細かく注意深く対応していく。コロナ禍での体調管理については、現在は各自で検温表をつけて健康観察を行っている。</p>
(6) 教育環境	<p>評価：ほぼ適切である。</p> <p>課題：ユニットや模型、トランクマネキン等数が劣化したものがあるので早急に整える。防火扉付近の荷物整理。</p> <p>改善策：防災委員会を中心に環境の見直し、予防意識を高めるための発信を積極的に行っていく。また、防災訓練と位置付けて、学生証アプリを使用した安否確認を定期的(年3回程度)に行う。</p>

<p>(7) 学生の受け入れ 募集</p>	<p>評価：ほぼ適切である。 課題：新たな減免制度の検討を行う。 改善策：令和4年度からの取組みとして、各クリニックから寄付を頂き、それを原資として入学時に、成績優秀者に対し前期学費相当分を奨学金として支給する制度を次の入試から実施する。</p>
<p>(8) 財務</p>	<p>評価：ほぼ適切である。 改善策：特に課題等はないが、学校としては財務情報の公開や会計監査等は適切に実施している。</p>
<p>(9) 法令等の遵守</p>	<p>評価：ほぼ適切である。 課題：自己評価委員会はどこで確認できるのかを知りたいというコメントあり。 改善策：本会議の内容については、ホームページで公開しており、当学科からも構成員には適切に説明を行う。</p>
<p>(10) 社会貢献・ 地域貢献</p>	<p>評価：ほぼ適切である。 課題：日々の授業等で1日が過ぎ去り、なかなかボランティア活動を取り入れ奨励していくまでには至っておらず学生は経験できていない。 改善策：コロナ禍でのボランティア活動は難しい面があるが、可能なところから検討していく。</p>

3. 2021年度 学校関係者評価 (2020年度の自己評価についての評価)

項目	評価
(1) 教育理念・目標 「理念・目的・育成人材像は定められているか」	ほぼ適切である。
(2) 学校運営 「目的等に沿った運営方針が策定されているか」	ほぼ適切である。
(3) 教育活動 「教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか」	ほぼ適切である。
(4) 学修成果 「卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか」	ほぼ適切である。
(5) 学生支援 「学生相談に関する支援体制は整備されているか」	ほぼ適切である。
(6) 教育環境 「施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか」	ほぼ適切である。
(7) 学生の受け入れ募集 「学生募集活動は適正に行われているか」	ほぼ適切である。
(8) 財務 「財務について会計監査が適正に行われているか」	ほぼ適切である。
(9) 法令等の遵守 「法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか」	ほぼ適切である。
(10) 社会貢献・地域貢献 「学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか」	ほぼ適切である。

4. 学校関係者評価 総括と課題について

項目	評価・意見
自己評価結果についての全体的な評価・意見等	教育の質の担保のために、人材採用・人材育成は必須であり、今後も学生に適切な教育を提供できるように、採用計画を進めていき学校力を高めるように努めていく。